

自分が変わる クラスの空気が変わる絶好の機会

日焼けをした子どもたちの姿に笑顔に挨拶に、夏休みに慣れたこちらの身体も心も引き締まる。「子どもたちからエネルギーをもらっている職業」であることを、2学期の始業式に実感される方も多いのではないのでしょうか。「子どもたちの顔を見てやる気が沸いた。」そんな北西小の教職員でいて欲しいと思います。

さて、「きたにし通信 1」で学級経営のポイントである「黄金の3日間」の話をしましたが、2学期の始まりも、それに匹敵する絶好の機会です。なかなか改善しなかったことが、「あれっ」と思うくらいできるようになる学年や学級、個々の子どもを目にします。

どの子ども変わりたいと思っています。でも、それぞれの事情があって、できないのです。みなさんにもそういったことはありませんか。私にはあります。学期初めの教師の肯定的な一言は、そんな子どもたちにとっても絶大な後押しになることがあります。

「さりげなさが重要」・・・耳元で。すれ違いざまに。帰り際に。簡潔・端的な言葉で。

「演技が重要」・・・表情、声色、言い回し。役者になりましょう。

「意図的・計画的な声かけが重要」・・・継続的な見取りの中で「今日は、この子を」と意識的に関わってください。

「周囲への理解啓発が重要」・・・上記の3点をポイントに「そういえば さん、
になってきたね。」とさらっと、または、大げさに。

気がつくとできるようになっていたということが大切です。

私は、このことを特別支援学級(知的固定)で先輩から学びました。「さりげなく、後ろから、すっと押してあげる」きめ細やかさは固定でも通常でも通級でも特別支援教育の根幹です。経営方針で何度も言う「全ての児童の心のひだを感じ取り支援する」実践にもつながります。

新しい取り組みを始めることも学級経営の良い刺激になります。「学級通信」「学級の歌」「良いこと見つけカード」「マイホームワークプラン(自主学習計画表)」などなど私も色々やってきましたので、興味のある方は聞きにきてください。また、互いの今までの実践を共有してみてください。子どもたちに「なんだか2学期のうちのクラス面白そうだな」と思わせられれば、こちらのものです。

その中でも、ぜひ「学級の歌」を歌う機会をもって欲しいと思います。
「学級の歌」の推奨については 22、24で発信した通りです。